

子どもたちからもらう

校長 武井 正明

慌ただしい毎日の中で、ふと増田先生と話をするタイミングがあった。

「あつというまだねえ増田さん。もう2年目が終わるねえ…。よく頑張っているなあ」

「つつい無理させてしまうけれど、心身の疲れはどう？特に『心』の方は？」

彼からは笑顔で「ありがとうございます。寧ろ去年よりも『心』の疲れは少ないです。やっぱり自分の学級があるって、いいなって。何かあっても自分のクラスに行くと、子どもたちから元気をもらうんですよね」と返してくれた。

その言葉を聞いて、私は本当に嬉しくなった。あつ、ここにも俺と同じ人がいたなって。

しかし、正確にいうと私がそういう心境になったのは、教員になって4年目。増田先生は既に2年目で、そういう気持ちになっている。

それはなぜだろう。

先日の成人の日のニュースでも感じたことだが、今の若い人たちは感謝の言葉が、しぜんに口を突いて出てくる。これは自分が若い時にはなかった風潮だ。昔と比べて、若い人たちの多くが、謙虚になった印象がある。

増田先生は私に限らず、先輩職員の話をお聴くとき、必ずメモの準備をしている。これはいつもそうだから、もう身に付いていることなのだと思うが、意外とこれができない。

自分は書かなくても憶えていられる、とついつい自分を過信してしまうからだ。こういうところは、日頃の心掛け次第。年齢ではないと思う。

彼が教員になって初めて担任したのが2年2組。そして、初めて修学旅行の引率に行くのも2年2組。これはきっと、増田先生も生徒達も、決して忘れることのない、思い出に残る二泊三日になるのだろう。

私は、教員通算18回目の修学旅行の引率となる。

昨年は大寒波が関西を直撃し、まさかの大雪のUSJとなった。しかしこれが修学旅行の素晴らしさ。それさえも、楽しいハプニングに変えてしまう魅力がある。

旅行前「絶対にみんなが笑顔で帰ってくる旅行にしましょう!!」と呼び掛けた。そして、その通り、みんな健康に過ごし、笑顔で帰ってきた。

来週はいよいよ、2年生が待ちに待った二泊三日がやってきます。

不要な外出は、極力控え、よく食べてよく寝て、温かく、静かに過ごして迎えましょう。週末は気温も上がります。春はもう、そこまで来ていますよ。

新潟よりも、一足早い春を感じに出掛けましょう!!